鳥取県日南町の“森と人づくり”
～脱炭素社会に向けたSDGs未来都市の挑戦～

SDGs未来都市選定（2019年度）
2050年ゼロカーボンシティ宣言（2020年度）
内閣府・地方創生SDGs金融表彰（2021年度）
総務省・ふるさとづくり大賞（2021年度）
NIKKEI脱炭素アワード（2021年度）

中国山地のほぼ中央に位置し、面積の９割が森林
過疎、少子高齢化が進行する**「日本の３０年後の姿」**の町として
多くの学術機関におけるモデル地域となっています

農林業を基軸として、緩やかな人口減少を実現させる
町民総活躍の**「創造的過疎」のまちづくりへ挑戦**しています

人口予想

（参考）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25(2013)年3月推計）」より

1. 少子高齢化と人口減少に伴う地域コミュニティ機能の低下
2. 他地域に先駆けて人口減少、少子高齢化が進んでいる。

↓

・「日本の30年後の姿」

日南町の森林の概要

- 林齢構成：7齢級（35年生）～11齢級（55年生）
  →収穫期を迎えている

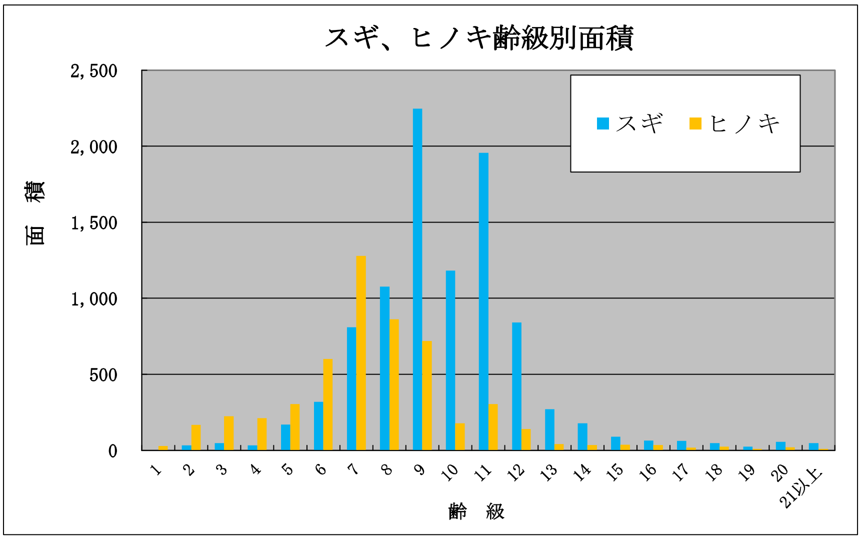
・町面積：34,096ha（県土面積：約10%）

・林野面積：30,463ha（町面積：約89.3%）

- 構成樹種
  ス　ギ 面積：9,557ha
  材積：466万㎥（伐期413万㎥）
  ヒノキ 面積：5,268ha
  材積：145万㎥（伐期117万㎥）

- 年間生産量：約8.5万㎥
  年間成長量：約10.9万㎥

- 町有林面積：約2,300ha
  皆伐10ha/年
  間伐30～40ha/年
  町有林出荷量：6,000～7,000㎥/年



木材流通拠点の整備：日野川の森林木材団地

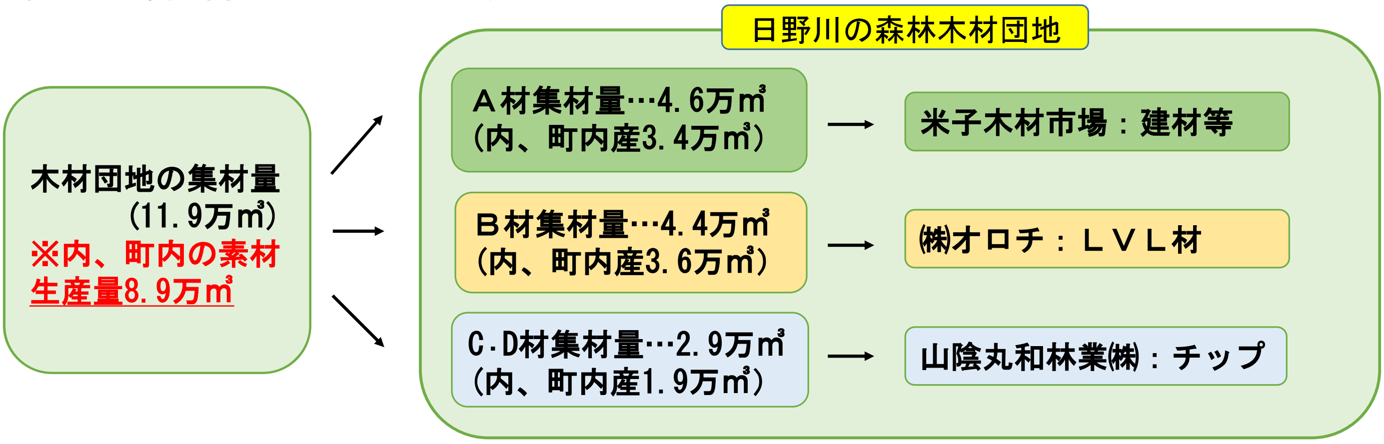
・雇用創出
・林業から林産業へ脱皮
・拠点化による集荷の効率化

- 林業再生事業を体系的に推進し、地球環境及び生態系に配慮した林業を目指す
  →平成17年地域再生計画の認定
- 総合的木材流通加工拠点を設置し、生産・加工・流通の連携→総合的な低コスト化により、『定時定量』『定品質』『定価格』の安定供給システムを目指す
  →平成18年『日野川の森林木材団地』設置
- 団地内企業：LVL製材工場、森組集荷場、原木市場、製紙用チップ供給会社

<ABCD材すべての供給先を1団地に整備>
○山土場での選木が不要になる→現場作業の軽減
○町内外の多数の事業体から出荷→出荷量の安定
○他県に流れていた材を地元加工→雇用の創出
○ABCD材の価格等の情報集約 →出荷先選択が正確

町内木材流通の変化： 町産材：平成16年3万㎥→平成30年11.4万㎥→令和3年11.7万㎥

令和３年度日南町における素材生産の状況



●団地内に施設を集約化したことにより，低コスト，素材の安定供給が実現

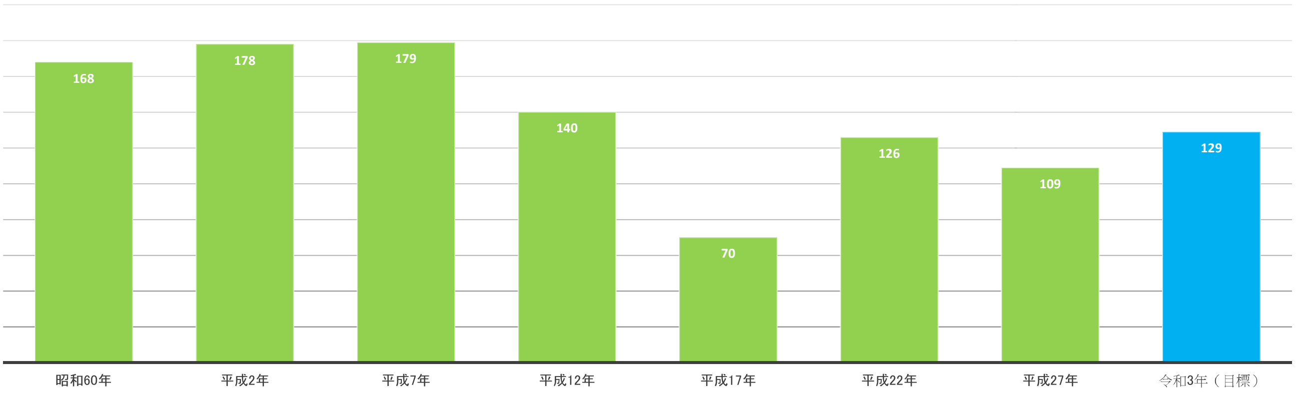
●平成16年度の時点で，市場での集材量は３万㎥程度であったが，平成28年度に10.4万㎥，平成29年度に10.6万㎥，平成30年度に11.4万㎥，令和元年度に12.4万㎥(暖冬の影響)，令和2年度に10.5万㎥，令和3年度には11.9万㎥を集材（鳥取県内流通量のほぼ1/3）

林業の担い手の確保

- 日南町の林業就業者数は、急激な減少から、素材生産の増加に伴い平成17年からは増加に転じ、高齢者の引退のため一時的に減少している。

→更なる生産量増産のためには、人材の育成・確保が必要

日南町林業従事者数の推移（人）(国勢調査より抜粋)



林業成長産業化地域創出モデル事業における地域構想

鳥取県日南町・中央中国山地地域循環型林業モデル構想

キャッチフレーズ
～木材カスケード計画を基軸とする新たな循環型林業の創造～

1．事業全体の概要【施策の方向性】

Ⅰ．森林資源を無駄なく、かつ効率的に活用する「カスケード計画」を基軸とする新たな循環型林業を構築し、林業の成長産業化を目指す。
Ⅱ．林業の成長産業化に伴い、新たな雇用を創出することで人口増加を目指すと同時に、町内の地域経済循環率向上を目指す。
Ⅲ．林業の町にふさわしい、子育て支援・人材育成を行うことで、将来における林業業界の担い手の確保を目指す。

2．地域の実態

●林齢構成の不均衡
→8齢級から11齢級が約60%を占めており皆伐再造林による林齢平準化が必要。
●民間林の不在村地主問題
→集約施業を行う上で大きな妨げになっており、施業同意が取れず集約施業ができない状況が生じている。
●林業業界における恒常的な人手不足
→今後の大手企業進出に伴い、多くの木材搬出が予想される中、人材不足のため新たなビジネスモデルの実施が困難な状況が予想される。

3．重点プロジェクトの概要

1．『使い切る』木材活用事業

①不在村地主等山林集約化事業
■不在村地主問題の解消に向け、森林組合と連携し、企業への売買斡旋等集約化を図る。そして、適切な森林管理を行うとともに、集約化施業を推進することで、未整備林をなくし、安定・継続的な事業確保を目指す。

②ICT技術を活用した中央中国山地地域モデル循環型林業の確立事業
■航空レーザー計測、山林3Dスキャンなどのict技術を活用し、正確な立木の情報を把握する。そして、今後実施することになる事業展開に備えるため、こうして得た正確な森林資源量を循環型林業の基礎データとして整理する。

③FSC材・FSC製品流通拡大事業
■県境を跨いだ近隣市町村・企業と連携を図りながら、FSC認証材の流通量を増やすことで、林業業界の収益の増加を目指す。また、既製製品についてもグローバルスタンダードとなりつつあるFSC認証材を使用することにより、より競争力の高い製品の製作と製造を図る。

④森林カスケード新マテリアル開発事業
■木を『使いきる』という点において、これまで産業廃棄物として処理していたバークを用いたバイオマス燃料を製造するとともに、大建工業㈱と連携したDWファイバー製造技術を用いた新商品開発を実施し、森林資源のマテリアル利用による地域経済の進展を図る。

⑤木材公共施設等整備事業
■町内に建設予定のコミュニティーセンターの建設や木質バイオマス熱変換を活用した木造農業用ハウス等の建設にあたり、町産材を100%使用したFSC認証LVL材を利用し、林業を核とする地域経済循環率の向上を図る。

2．日南町版林業担い手育成事業

⑥林業アカデミー整備事業
■地域循環型林業モデルの各種事業実施に向けての人材確保は必須であり、とりわけ高性能林業機械の活用、それに伴う特別教育の資格取得は喫緊の課題である。そこで、林業アカデミーを開設し、大建工業㈱を始めとする加工業者らが求める即戦力を育成し、関連企業・大学等専門機関とタイアップしながら、中央中国山地地域の求める人材の育成を図る。

⑦200年の森等木育整備事業
■林業の町ならではの教育を行うことを目的に、「木育」を積極的に実施する。具体的には、樹齢200年のスギ林の一部をフィールドとしたカリキュラムを大学と連携して構築するとともに、子どもから大人まで木の魅力を学べる場を創出する。とりわけ子どもには、木や森林それに関わる仕事の大切さという点について重点的に学ぶことのできる機会を提供し、林業の魅力を浸透させていく。

4．地域の関係者で実現する将来像

●行政・関係企業が一体となり、循環型林業を構築し、林業を「稼げる職業」「魅力ある仕事」に昇華させ、多くの人を呼び込み、その経済波及効果によって過疎からの脱却を目指す。
●県域を超えた取組とすることで、単一市町村では困難なFSC認証材の販路拡大を進め、他の国産材との競争力を向上させる。

にちなん中国山地林業アカデミー概要

■ 定員10人 （1年制）
1期生 7人卒業 町内5人、県内0人、県外2人
2期生 7人卒業 町内4人、県内2人、県外1人
3期生 13人卒業 町内4人、県内4人、県外5人
4期生 12人入学（県外6人、県内6人）
※卒業後の居住（1-3期卒業生（27人））
鳥取県内在住→ 19人（うち、日南町在住13人）

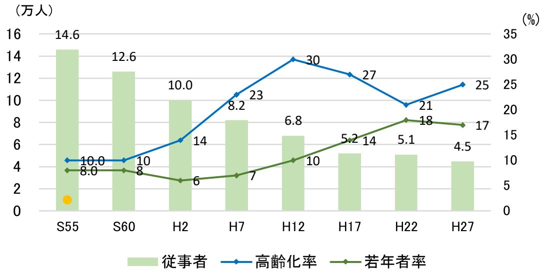
≪にちなん中国山地林業アカデミーの特徴≫
・全国初の町立林業学校
→就職先を限定せず、日本の林業の担い手を育てる
・林業現場からの逆算で、必要な技術知識を学ぶ
・専従指導者による安全重視の実習指導
・演習林(668ha)で林業の経験値を上げる豊富な実習量
・森林教育の企画・実践

《林業アカデミー設立の背景》

- 林業人材が減少の一途を辿る
- 持続的で健全な森林を守る
- 山村地域での雇用の創出
- 地域の担い手の確保
- 労働災害も高位で横ばいが続く

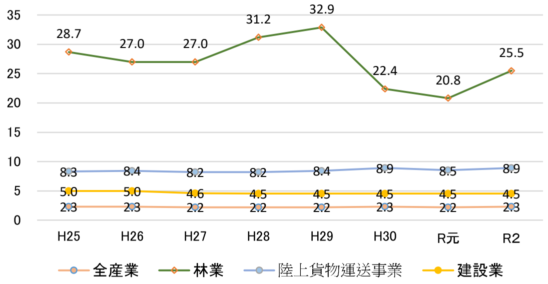
- 森林・林業に関する高度な知識・技術を有する担い手の育成が急務

林業作業員者数の推移



資料：総務省『国勢調査』

労働災害の発生率（死傷千人年率%）



資料：厚生労働省ホームページ「職場のあんぜんサイト」

研修施設：アカデミー校舎・演習林

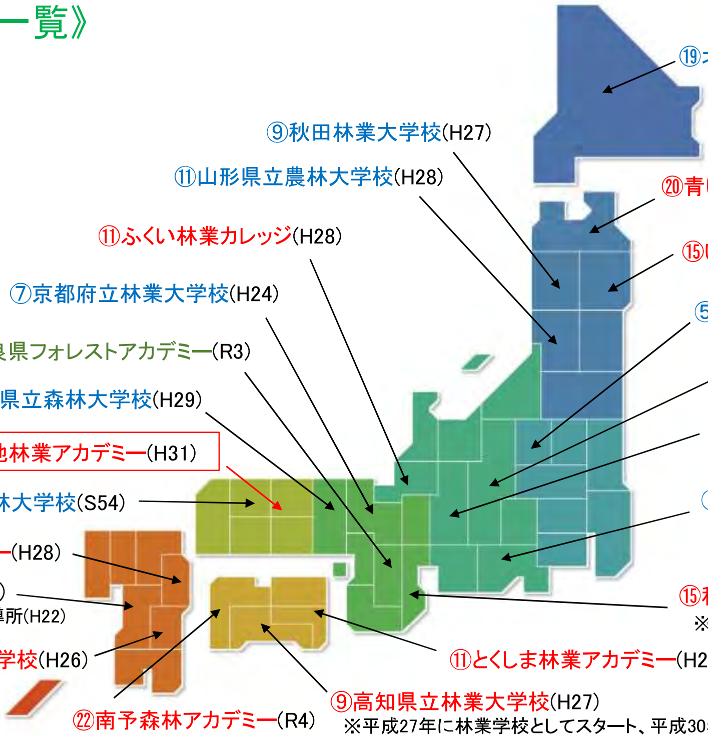
《アカデミー校舎》…廃園した「多里保育園」を改修
（H15建築，H29廃園，改修費用…26,881千円）

■教　室…36名（最大）
■図書室…林業関連書籍・雑誌
■研修室…林業関連の研究用
■その他…シャワー室、専用ロッカー、休憩室ほか
備品等整備（H29～H30…8，557千円）

《演習林：にちなん環境林》
■面　積…668ha（林業アカデミー日本最大）
（杉164ha，桧87ha，赤松36ha，天然林381ha）
■建　物…事務所、実習棟
■その他…ＦＳＣ森林認証の森

《全国の林業学校一覧》

○⇒２ 年 制　…10校
○⇒１ 年 制　…11校
○⇒1・2年制…　1校



《運営協力団体》

＜運営協力サポートチーム＞

○林業事業体、企業等

日南町森林組合(代表)，日南町木材生産事業協同組合，㈱オロチ，㈱グリーンシャイン，大建工業㈱，国土防災技術㈱，㈱レンタルのニッケン，岡山県施業研究会

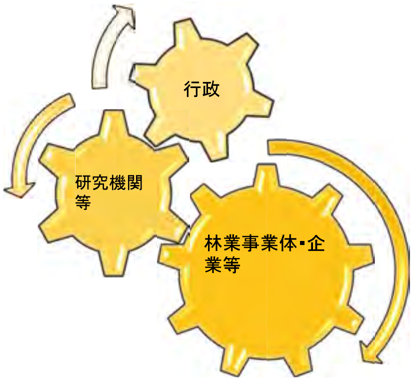
○研究機関等

鳥取大学農学部フィールドサイエンスセンター，島根大学，公益財団法人鳥取県林業担い手育成財団，林野庁森林技術・支援センター

○行政

鳥取県，岡山県，林野庁鳥取森林管理署

（以上15団体）



《特徴的な教育》

○林業現場での実践重視のカリキュラム
○労働災害対策としての徹底した安全作業の指導
○リーダー教育として作業班長制度を導入
○複数の優良事業体への視察とインターンシップ
○専任の教員らによる丁寧な指導

分　類	科　　目		時間	講義名		講　師	実施場所	内　　容
林業入門・教養（72）	林業入門		48	オリエンテーション（座学）	3	小菅良豪(アカデミー)	校舎ほか	研修内容・設備利用の説明
				林業入門(座学)	2			林業の基礎知識の習得
				林業入門(実習)	1			
				町内林業(実習)	6			町内の施業現場での説明と解説
				木材団地・LVL製造工場(座学)	2			町内の木材流通・加工についての説明と解説
				木材団地・LVL製造工場見学(実習)	4			
				社会人基礎(座学)	24			社会人に必要な社会常識を身に着ける
				仕事の仕方(座学)	6			ビジネスマナー・情報処理
	社会・地域理解		24	地域活動(実習)	12	小菅良豪	日南町内	地域住民と一緒に地域を知り活動する
				社会問題(座学)	12			社会問題につい話題提供後、議論する
林学（78）	森林学	造林学(実習含)	78	造林学基礎(座学)	3	高橋絵里奈（島根大）	演習林ほか	造林に必要な知識を習得する
				造林学実習Ⅰ保育(実習)	3			人工林の密度管理方法の習得
				造林理論、事例：吉野林業(座学)	6			造林理論と吉野林業の事例紹介
				造林学実習Ⅱ毎木調査(実習)	6			毎木調査の方法と選木の基準理解
		森林計画学		森林計画学(座学)	6	米　康充（島根大）	演習林ほか	ドローン測量による3Dモデルやオルソ画像の作成
				ICT林業(座学)	3			ドローン測量による資源量・境界確認等
				ICT林業(実習)	3			（森林現況調査）
				ドローン測量(座学)	3			ドローン測量と3次元点群データ作成
				ドローン測量(実習)	3			（オルソ写真による施業成果の確認）
		森林環境・生態学		森林生態学基礎・実習(座学・実習)	6	高木康平（アカデミー）	鳥大蒜山演習林	森林の生態的な特徴を理解する
				植生・樹木調査(実習)	6			植物や樹木の種類の判別方法
				森林環境実習(実習)	6			森林環境の保全と環境負荷を理解する
		森林土壌学（実習含）		森林土壌学基礎(座学)	3	山下多聞（島根大）	演習林・校舎	森林土壌の特徴と適木を選定する
				実習Ⅰ土壌調査方法(実習)	6			土壌調査方法と林業への応用
				実習Ⅱ環境林の土壌調査(実習)	3			環境林における土壌調査・分析
		林政学		日本の森林・林業・山村政策(座学)	3	伊藤勝久（島根大）	校舎	森林・林業・山村政策と経済の解説
				林業経済学基礎(座学)	3			林業の経済的な仕組みと近年の傾向
		木材利用学		木材利用学基礎(座学)	2	桐林真人（林試場）	木材流通現場ほか	木材の種類・流通と特性別利用方法
				木材利用学基礎(実習)	4			
林業実務（続く）	林業労働安全衛生論		45	労働安全衛生法の解説(座学)	3	小菅良豪	校舎	法令解説と安全管理の基本
				労働災害事例研究(座学)	21			作業別事故の事例研究
				リスクアセスメント(座学)	6			リスク低減による作業の安全性の向上
				けが・熱中症の予防と蜂対策(座学)	3			腰痛・熱中症・蜂の予防と対策
				日常の安全対策：日報と改善(座学)	12			安全作業の予防と改善

にちなん中国山地林業アカデミー　～授業科目一覧 ②～

分類	科目	時間	講義名		講師	実施場所	内容
林業実務 (165)	林業人講話	30	現場見学と施業システムⅠ(座学)	4	オムニバス	林業現場	林業事業体経営者らによる施業の解説
			現場見学と施業システムⅠ(実習)	8			
			現場見学と施業システムⅡ(実習)	15			
			海外林業事情(座学)	3		校舎	海外視察者による海外林業報告
	林業経営基礎	12	林業経営基礎Ⅰ(座学)	3	小菅良豪	校舎	林業事業体の経営の仕組みと構造
			林業経営基礎Ⅱ(座学)	3			皆伐再造林の一貫作業システム導入による施業の効率化
			林業事業体の経営戦略(座学)	3			社会状況の変化に対応した経営戦略
			林業マネジメント(座学)	3			最適な林業経営に必要なマネジメント
	森林教育	12	森林教育の実践(座学・実習)	12	小菅良豪	町有林ほか	森林教育の視察と実践
	林業実務現地視察	66	苗木生産と林業(座学)	3	池本省吾（林試場）	校舎	低密度植栽の導入による林業経営の低コスト化
			苗木視察(実習)	3		県営生山採種園	町内の県営生山採種園の視察
			林道の種類と基礎(座学)	3	矢部　浩（林試場）	校舎	山に道を入れる意義と危険性の確認
			林道現場見学(実習)	3			町内の作業道現場の視察
			木材流通研修(座学)	6	院庄林業㈱ほか	院庄林業㈱ほか	製材工場、原木市場職場体験
			木材流通研修(実習)	12			
			国有林現場視察(座学)	3	鳥取森林管理署	国有林等	国有林現場(皆伐再造林の一貫作業システム等)の視察
			国有林現場視察(実習)	3			
			新たな林業実践(座学)	6	森林・技術支援センター	国有林等	国有林現場(皆伐再造林の一貫作業システム等)の視察
			新たな林業実践(実習)	6			
			林業機械展視察(実習)	18	小菅良豪	開催地	最新林業機械見学
実践林業 (591)	林業基礎実習	90	チェーンソー基礎(座学・実習)	20	飛田京子 小菅良豪 ﾚﾝﾀﾙのニッケンほか	演習林	安全なチェーンソー操作基礎
			刈払機基礎(座学・実習)	10			安全な刈払機操作基礎
			林業機械操作基礎(座学・実習)	30			安全な高性能林業機械作業の基礎
			チェーンソーメンテナンス(座学・実習)	6			チェーンソーの目立て
			林業機械メンテナンス(座学)	3			高性能林業機械の構造の把握と整備の重要性
			林業機械メンテナンス(実習)	21			高性能林業機械の始業前点検と月例点検の方法
	造林・育林実習	243	伐倒基礎(実習)	18	小菅良豪	演習林	チェーンソーの操作の基本と整備
			地ごしらえ(実習)	18			棚の作り方と植栽面の留意点
			植え付け(実習)	18			植栽の方法と作業場の注意点
			雪起こし(実習)	6			選木と成長を止めないひもの結び方
			下刈り(実習)	60			下刈り作業の方法と暑さ対策
			除伐(実習)	48			除伐作業の実践と不良木の選木
			枝打ち(実習)	18			2m枝打ち、梯子利用4m枝打ち
			切捨て間伐(実習)	57			選木方法と安全な抜倒方法

にちなん中国山地林業アカデミー　～授業科目一覧 ③～

分類	科目	時間	講義名		講師	実施場所	内容
実践林業 （続き）	伐木・造材実習	210	伐倒・機械伐倒(実習)	60	小菅良豪	演習林	選木と安全な抜倒方法の習得
			集材(実習)	30			グラップル集材等による木寄せ作業
			造材(実習)	30			ハーベスタ造材、チェーンソー造材
			作業道作設(実習)	60			ルート設計から壊れにくい作業道作設
			木材搬出・運搬(実習)	30			フォワーダへの積み込みから出荷
	林業現場管理実習	24	現場管理の役割(座学)	3	高木康平	演習林ほか	林業現場管理の基礎
			現場管理の役割(座学)	3			ドローン測量による資源量データの解析・施業前後の比較
			境界確認(実習)	6			境界確認の現場実習
			現場管理・事務処理(座学・実習)	12			現場管理写真等の実習
	多様な林業実習	24	特用林産(座学・実習)	12	小菅良豪	演習林	キノコの植菌、栽培
			広葉樹林作業(実習)	12			広葉樹の伐倒集材など
インターン (252)	インターンシップ	252	インターンシップ第1期(実習)	84	日南町森林組合ほか	本人希望先	林業現場体験①
			インターンシップ第2期(実習)	84			林業現場体験②
			インターンシップ第3期(実習)	84			林業現場体験③
	海外研修※希望者のみ					本人希望先	オーストリア、ドイツ、フィンランド等
研究 (36)	林業ゼミ	36	テーマ別演習、進路指導など(座学)	36	小菅良豪	校舎	テーマ別指導と進路相談
資格 (150)	各種資格 各種資格	147	車両系建設機械（整地等）運転技能講習	12	キャタピラー教習所ほか	演習林ほか	林業系各種資格の取得
			不整地運搬車運転技能講習	12			
			小型移動式クレーン運転技能講習	18			
			玉掛け技能講習	18			
			フォークリフト運転技能講習	24			
			小型車両系建設機械運転特別教育	12			
			伐木等の業務従事者に係る特別教育	15			
			伐木等機械の運転の業務に係る特別教育	6			
			走行集材機械の運転の業務に係る特別教育	6			
			簡易架線集材装置の運転業務に係る特別教育	6			
			刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育	6			
			狩猟試験講習	6			
			狩猟試験	6			
	救急救命講習	3	救急救命講習	3	渡邊勝也（日南町）	校舎	AED使用法等の救急救命方法の習得
計　1,344 時間							

日本一濃密な森林教育を目指す！日南町の一貫的な森林教育プログラム

＜現在　森林教育＞	＜新規：森林教育一貫プログラム＞
・胎　教	・胎　教
・誕　生	・誕　生　木のおもちゃプレゼント
・保育園　※森の保育園実施中	・保育園　もりのほいくえん
・小学校　5年生のみ森林教育	・小学校　1年1回は、森で1日過ごす！
・中学校	・中学校　森林教育の一区切り（ゴール兼スタート）
・高　校	・高　校　林業体験、森林での冒険教育
・大　人	・大　人　大人向け森林教育

課題①　保育園から小学5年生まで、森林に入る機会がない。

課題②森林教育の目標が無い

課題③中学生以上のプログラムが無い

＜森林循環のスタート＞
- 地元産材で作成した、木のおもちゃ・木製品をプレゼント

＜保育園から中学生まで＞
- 年齢・学習指導要領に合わせた森林教育
- 小さな町だからできる保育・小学共同授業
- 小学高学年からのキャリア教育
- 林業従事者を"指導者"にするための指導者研修
  →森林教育の指導が副業に

- 日南町の子供たちに、森林に近い「強み」を生かして直接触れ合う体験を通して、地域の自然環境を知り持続的に自然と共生できる逞しい人材を育成する教育に取り組む。←子育て世代の移住者への日南町のPRにもなる。
- 多様な関係者(行政、教育、林業、森ボラ、研究者)が参加する検討会の開催、実施体制を図る。

地元産材で作成した、木のおもちゃ・木製品をプレゼント

日本海新聞
令和 元年１２月２７日（金）

積み木 赤ちゃんに贈る
日南町「木育事業」、名前刻印し

日南町産の木材を使い、町内で制作された積み木セットを丸山副町長（右）から手渡される親子＝26日、日南町生山の町子育て支援センター

林業を生かした木育事業に取り組む日南町は本年度、赤ちゃんに木育玩具を贈る「ウッドスタート事業」を始めた。26日に同町生山の町子育て支援センターで贈呈式があり、15組の親子に町産材を使った積み木セットが贈られた。

積み木は、寄せ木細工の白谷工房（同町福塚、中村建治代表）が制作。三角や四角、八角柱など大小約50のパーツが、赤ちゃんの名前が刻印されたヒノキの箱に入っている。

木材は町内の古民家「旧木下家」から譲られたクリ材を使った。地元業者が地元の素材で作った誕生祝い品を贈るのは県内初。

贈呈式で丸山悟副町長は「木育は持続可能な町をつくる大切な取り組み。この子たちが大人になっても住み続けてもらえる町にしたい」と述べ、1組ずつ名前を呼んで手渡した。

7カ月の長男、元渡ちゃんと一緒に受け取った同町多里の井上慈子さん(37)は「軽くてけがしにくく安全。たくさん遊んで人にも自分にも優しい子に育ってほしい」と話した。

同町では4月以降、17人の赤ちゃんが誕生。祝い品は今後、赤ちゃんが生まれた家庭へ順次贈られる。

（本高屋修）

学校における森林教育授業状況～学習指導要領に沿った森林教育　～

授業内容:間伐体験、林業算数(円柱の体積を測る)、林業機械操作体験、木材団地見学

都市部の子どもたちとの交流（間伐体験、製材見学、自由研究等）

高校生･大学生～社会人／企業の森活動等

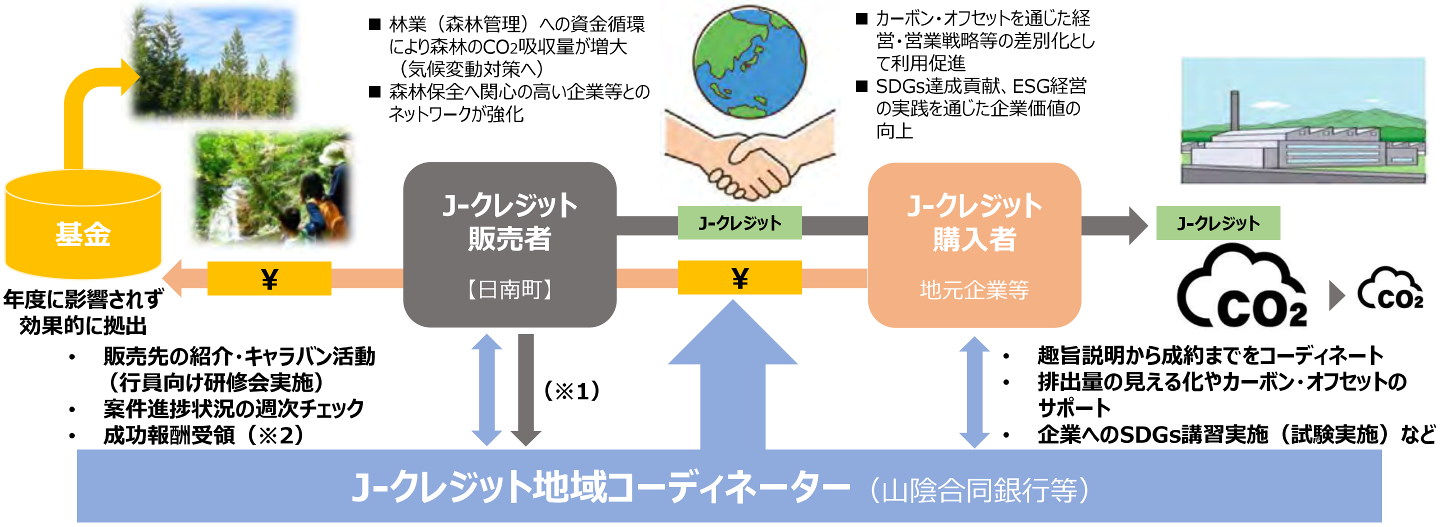
＜基本プログラム＞　1泊2日
○1日目
･林業総論（日本の林業の現状･実態、鳥取県の林業の説明）
･林業現場視察（林業現場で、林業で働く人の生の声を聴く）
･林業従事者との懇親会
○2日目
･林業体験　（チェーンソー伐倒体験、林業機械体験）
※鳥取県森連と合同で、8月に実施した。4名の参加者のうち
　3名が林業に就業もしくは林業アカデミーへ。

日本通運株式会社
～日通共生の森活動～
森林保全活動や木材利用の促進活動を
目的に、１０年以上にわたり開催。

＜R1年度実績＞
･新見北高校（岡山県）
･倉吉農業高校
･日野高校インターンシップ
･鳥取大学など

J-クレジット販売促進スキームのご紹介

■　Ｊ－クレジット制度とは、対象の森林における二酸化炭素（ＣＯ$_2$）の吸収量を認定し、売買を可能とした制度であり、**日南町ではＦＳＣ森林認証を受けている日南町有林において、間伐地を対象にクレジットを認証取得。クレジットの売上は林業振興･生態系保全に活用し、持続可能な森林づくりへ充当している。**

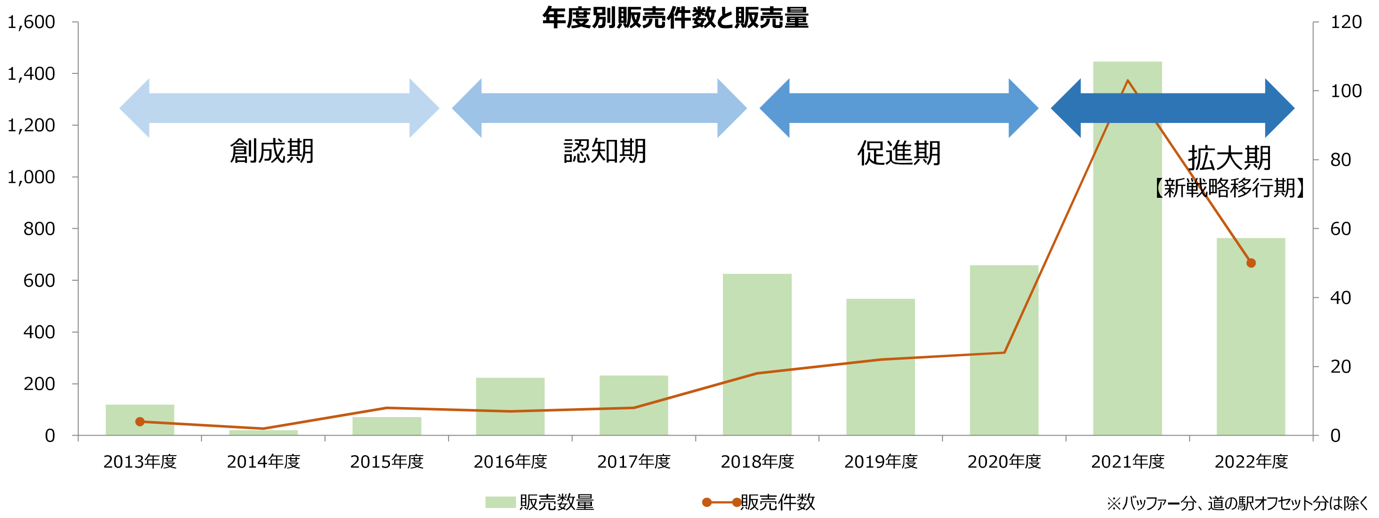


（※1）J-クレジットの販売者（地公体等）と事前に「地域コーディネーター契約」を締結し任命をうけ活動【官民協働･実効性】
（※2）成約となった場合にのみ、販売代金の一部を成功報酬として受領する規定【独自性･持続性】

日南町有林J-クレジット販売実績

2022.11.30現在

年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
販売件数	4件	2件	8件	7件	8件	18件	22件	24件	103件	50件
販売量（t-CO2）	119	20	70	223	231	625	529	658	1,974	764



※バッファー分、道の駅オフセット分は除く

波及効果を生み出す仕組み（情報発信）

山陰中央新報
令和3年12月31日（金）

日南町のC02取引 過去最高更新中
企業のSDGs関心高く

企業活動などで排出される二酸化炭素（CO_2）を森林の吸収量で相殺する国内取引市場のJ―クレジットで、鳥取県日南町の販売量が2021年度、初の千㌧を突破し、過去最高を更新中だ。既に20年度の2倍を超し、1500㌧に迫る。町農林課の担当者は「SDGs（持続可能な開発目標）への関心の高まりがある」と分析する。

国が認証するJ―クレジットは地球温暖化の原因となるCO_2を排出する企業側と、適切な森林管理で吸収する側が取引する仕組み。

CO_2の国内取引で活用している鳥取県日南町の町有林＝日南町新屋

日南町は13年に国際的なFSC森林認証を受けた町有林約3000㌶を対象に市場参入。6600㌧の販売を始め、1㌧当たり8千円の取引価格で得た資金は植林や木育など森林保全に活用している。

21年度は一段と高まった気候変動の危機意識などを受け建設や運輸、食品、設計など多業種が購入。取引件数と販売量は12月28日現在で79件、1446㌧に達し、過去最高だった20年度（24件、658㌧）をあっさりと超えた。

活発化するCO_2取引について、売買契約を仲介する地元金融機関の関係者は「世界的な気候変動問題に対する関心が山陰両県の企業経営者にも広がっている表れ」と分析。今後の取り組みでは「企業間に横たわる環境意識の温度差の解消」を挙げた。

好調なCO_2取引だが、喫緊の課題は森林の確保。22年度も同じ水準の取引量になれば、ほぼ底をつく。

国選定のSDGs未来都市である日南町は現在、J―クレジットの対象となる町営太陽光発電所や小水力発電所、バイオマスの活用も視野に入れる。担当の荒金太郎・農林課主任は「地域資源を生かし、ゼロカーボン社会の実現に寄与したい」と話した。（山根行雄）

日南町のJ―クレジット販売量と取引件数

年度	販売量（㌧）	取引件数
2013	119	4
2014	20	2
2015	70	8
2016	223	7
2017	231	8
2018	625	18
2019	529	22
2020	658	24
2021	1446	79

2021年度は12月28日現在

日南町公式HPにて全ての購入先企業を掲載

令和元年7月5日、株式会社中海テレビ放送様と日南町において「J－クレジット」購入に係る売買契約の締結を行い、同日調印式を行いました。株式会社中海テレビ放送 様には、本町J－クレジットを123トン購入いただきました。調印式には、株式会社中海テレビ放送 代表取締役社長 加藤 典裕 様、同社とのマッチングをいただきました山陰合同銀行 常務執行役員米子営業本部長 安喰 哲哉 様、鳥取県知事 平井 伸治 様、日南町長 中村 英明が出席しました。株式会社中海テレビ放送 加藤社長様からは「このたび、弊社の運営するchukai電力サービスの契約者様が、1契約につき日南町の杉の木1本分のCO2排出削減を行う取り組みとして、日南町のJ－クレジットを購入させていただいた。地域に根差す企業として、県西部圏域の発展に寄与したい」と購入の経緯についてお話しいただきました。式典では、日南町より町のFSC森林認証材で製作した認定証が手渡され、また、このたびの契約に際し、鳥取県より「とっとりの森を守る優良企業認定」の証書も手渡されました。このたびの契約で、日南町がSDGs未来都市に選定されて以降、初のJ－クレジット売買契約の締結となりました。

この記事に関するお問い合わせ先

農林課
〒689-5292
鳥取県日野郡日南町霞800番地
電話 0859-82-1114／ファックス 0859-82-1478
お問い合わせフォームはこちら

地方銀行と連携した「Ｊ－クレジット」販売

- 内閣府 地方創生SDGs金融表彰
- 総務省 ふるさとづくり大賞
- NIKKEI脱炭素アワード　（いずれも令和３年度受賞）

山陰合同銀行　幸せはこぶマイバンク よなごしんきん
鳥取銀行　一生涯のパートナー 第一生命 Dai-ichi Life Group

山陰（鳥取、島根）を拠点とする地方銀行２行と「Ｊークレジット」販売コーディネート契約を締結。銀行が仲介した契約については、契約（販売）金額の５％を手数料として支払い。→全国のモデル事例となっている。

行革甲子園２０２２

日南町 Nichinan Town

地方創生・ＳＤＧｓ、脱炭素化に向けた地域事業者との連携

- J-クレジットも含めた、令和元年度SDGs未来都市への申請にあたっての地域事業者を含めて機運醸成
- 地域事業者と行政職員、地域住民等を含めた研修会等の実施
- 国や地方公共団体、経済団体等が主催するセミナーや研修会でも、積極的に町の取り組み事例を発信
- Ｊ－クレジット購入企業向けのセミナー等を実施し、企業全体（社員含めて）でのSDGs・脱炭素経営の推進
- 中山間地域における地域金融機関の役割は極めて大きい。積極的な官民連携の橋渡し役として活躍

森林所有者の再造林費用低減（皆伐再造林補助制度）

日南町民有林再造林新植経費補助金 （平成27年度に施業された事業から適用）

1.日南町内の山林で、森林経営計画に基づく造林補助金の交付を受ける地拵・新植事業が対象

2.日南町内に山林を所有する個人

3.人工林の再造林を対象とし、天然林の再造林は対象としない

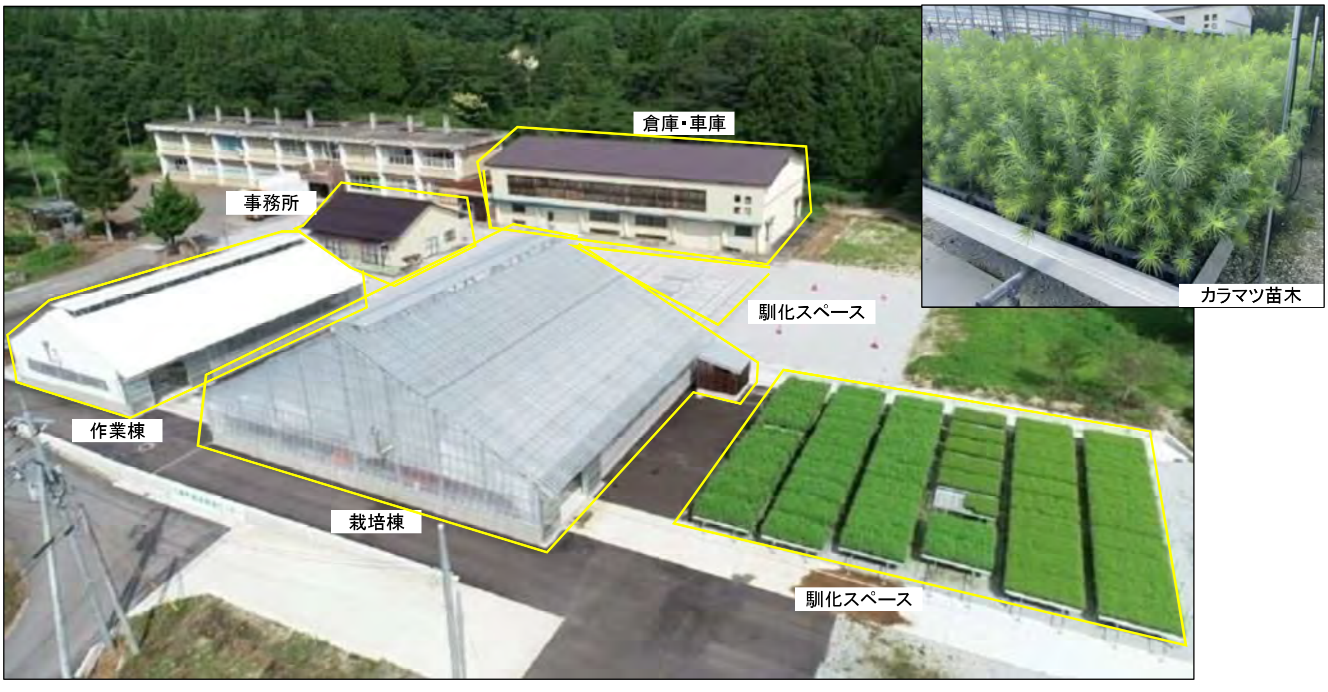
日南町森林組合皆伐・再造林推進支援事業 （平成30年度に施業された事業から適用）

1.再造林を行う森林所有者の造林保育事業の所有者負担額を組合が支援（５年間）

2.支援対象者は、組合の正組合員

3.当区域の人工林で、スギ、ヒノキ、マツを皆伐した森林が対象

コンテナ苗生産基盤施設の整備



コンテナ苗生産基盤施設の整備

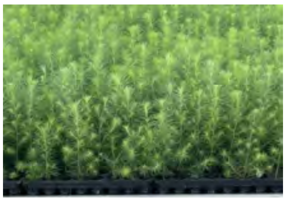
日南町樹木育苗センター　（令和３年１２月竣工）　実施主体：株式会社ウッドカンパニーニチナン

施設内容	：	耐雪ハウス　（作業棟231㎡×1棟　栽培棟462㎡×1棟）　馴化スペース 自動潅水　ムービングベンチ　暖房　種子選別機　種子発芽庫
生産規模	：	年間 12万本　（3,000本/haとして、40ｈａ植栽可能）　町内・県内外販売
生産樹種	：	カラマツ　少花粉スギ　ヒノキ 等
施設特徴	：	ＩＣＴ技術の活用（遠隔温度管理）　省力化（管理者１名、補助者１～２名）
事 業 費	：	約１.3億円　令和３年度林業・木材産業成長産業化促進対策交付金
そ の 他	：	特定母樹採取園整備　（カラマツ）

作業棟

栽培棟

順化スペース


栽培中のカラマツ

道の駅　にちなん「日野川の郷」

日野川の郷 にちなん さと

- 県内15番目、中国管内100番目の道の駅
- 国土交通省より「重点道の駅」として認定

環境にとことんこだわった

CO2排出ゼロの道の駅

SDGｓ未来都市×日南町

【CO2排出量『ゼロ』への挑戦】

①施設から排出されるCO2を全量オフセットすることで、CO2排出量ゼロの環境に配慮した「全国初」の道の駅を目指します。

②取り扱う商品は1品1円の寄付型オフセット商品とし、日南町の森林保全に活用されます。

売り上げの一部森林整備に
CO_2排出ゼロ「道の駅」
日南町 全国初の開業目指す
来春

企業活動で排出される二酸化炭素（CO_2）を、森林のCO_2吸収量で相殺する「カーボン・オフセット」。その国内取引市場に参入する「林業の町」鳥取県日南町が、来春オープン予定の道の駅で扱う農産物や加工品など全品目を対象に、商品価格の一部を町の森林整備に回す寄付型オフセット商品の開発に乗り出した。環境に優しい地場産品の高付加価値をアピールする一方、町は関係者の協力を得て全国初のCO_2排出量ゼロの道の駅を目指す。

環境省が後押しする開発計画は、道の駅「にちなん」構成の農林産物直売所や加工所、出荷施設、レストランに入る各事業者が営業活動で出るCO_2排出量を相殺するため、町や町森林組合が扱うカーボン・クレジット（J―VER）を購入。購入代金は商品価格に上乗せして販売する。

消費者は寄付型商品を買うことで間接的にCO_2削減に貢献し、吸収機能を持つ森林保全に協力する。一品当たり1円～数円を想定し、負担が重くならないよう配慮するという。

寄付型は道の駅が扱う新鮮野菜など全ての商品が対象。オフセット商品を示す独自の統一ラベルを作るほか、「日南町の森の管理に利用させます」といったポップ広告を掲げ、消費者に高付加価値商品を印象づける。

町はJ―VER取引を仲介し、環境貢献型商品を創出している東証1部上場の大手菓子会社と協議を進め、消費者ニーズを見据えてより効果的な仕掛けを検討中。来春の道の駅オープンまでに細部を詰め、寄付型オフセット商品を売り出す。

日南町では現在、町有林が約6千㌶、町森林組合が約9千㌶のCO_2吸収量を市場に出し、地元の金融機関など9社と取引契約を結んでいる。

増原聡町長は「林業の町ならではの道の駅の姿を探ってきた。寄付型オフセット商品を通して新規顧客や販路拡大などを図り、地域活性化につなげたい」と話している。

クリック

寄付型オフセット商品

環境貢献型商品と呼ばれ、消費者が日常生活で排出するCO_2を、商品購入することで埋め合わせ支援する。寄付金は森林整備や地域活性化などに活用。地球温暖化をもたらす温室効果ガスへの関心が高まる中、環境省が削減につながる商品開発推進に力を入れ始めた。

買い物をして、環境貢献！

道の駅の商品を寄付型オフセット商品として開発。1品1円のオフセットクレジットを付与して販売することにより売上の1円を日南町森林へ還元していく仕組みを構築。

森林を活用した修学・教育旅行の誘致

コロナ禍により、ＳＤＧｓで注目集める日南町

コロナ禍により、これまで県外や海外に修学旅行を行っていた県内の高校生や中学生などが、行動制限等もあり県内への行程となった。
こうした中で、これまで修学旅行等の受け入れの実績がほとんどなかった日南町が“SDGs教育”のフィールドへ名乗りを上げ、修学旅行や教育旅行の受け入れ先として注目されている。
2021年には、県内外の高校生や中学生など、延べ500名以上が来町。
今後、SDGs修学旅行のパッケージ、研修プランの構築を行う予定である。

廃材を活用した新産業「寄木細工」 ＳＤＧｓをイメージしたバッジ

１７種類の木材を使用したＳＤＧｓバッジ

2019年に国からSDGs未来都市（全国30都市）に選定された日南町。
SDGsの理念を町内外に発信しようと、町内の寄木細工職人と連携して17種類の木材（廃材）を使用したSDGsバッジを制作。
SDGsの目標である17のアイコンカラーを木材そのもの（無垢）で表現。
廃材を活用することで“バッジそのものがSDGs”である商品となった。

寄木細工ＳＤＧｓバッジ

SNSで紹介 全国から注文

日南の工房で製作

人気を呼ぶ17樹種を使った寄木細工のSDGsバッジ

SDGsバッジの製作に追われる白谷工房代表の中村建治さん＝鳥取県日南町福塚、白谷工房

国連が定める持続可能な開発目標（SDGs＝エス・ディー・ジーズ）を表す寄木細工のバッジが、経営者や女性を中心に人気を集めている。考案し製作するのは鳥取県日南町福塚の白谷工房。町産木材や廃材などを使い、木のぬくもりが感じられると全国各地から注文が舞い込んでおり、木工職人が細かい手作業に追われている。

（山根行雄）

SDGsは貧困や飢餓、健康・福祉、平和と公正、経済成長、気候変動など21世紀の世界が抱える課題を17目標として掲げ、各国に2030年までに達成するよう促す。

バッジはSDGsの17目標を表すため、主に日南産のヒノキ、ケヤキ、サクラ、トチ、クリなど木肌の違う17樹種を使って製作。素材は廃材や使い道のない端材で、ブナは工房を構える旧福栄保育園の真向かいに立ち、近く解体される旧福栄小学校の建材を再利用している。

作業は各樹種を二等辺三角形（辺の長さ4・8〜13ミリ、厚さ7・5ミリ）に加工して組み合わせ、木工旋盤でリング状（長径2・4センチ）に仕上げる。熟練の技が要求され、1週間で100個作るのが精いっぱいという。

昨年7月、町が国の自治体SDGs未来都市に選定されたのを記念して考案。半年前から会員制交流サイト（SNS）で1個3850円で紹介したところ、県内の経済団体や鳥取大から大量注文が入り、今では木のぬくもりと洗礼されたデザインに魅了された女性からの依頼が相次ぐ。

人気女優のヘアアクセサリーを手掛けた工房代表の中村建治さん(45)は「循環型社会を意識して商品化した。SDGsの認知度アップにつながればうれしい」と話す。

ご清聴ありがとうございました